

## 令和4年度第6回神奈川県ボランティア活動推進基金審査会（概要）

日時 令和5年2月15日（水）13：30～18：15

場所 かながわ県民センター11階 コミカレ講義室2

### ■ 開会

（かながわ県民活動サポートセンター副所長から本日の予定を説明）

- 田中委員、峯尾委員が欠席、委員6名で開催。
- 会議の流れを説明
  - 13時30分～15時00分 事前確認
  - 15時10分～16時50分 令和5年度ボランティア活動補助金（新規）のプレゼン審査
  - 16時50分～17時50分 プレゼン審査に対する選考
  - 17時50分～18時00分 令和5年度協働事業負担金の最終選考
  - 18時15分 閉会

（審査会長より開会の宣言）

- 令和4年度第6回神奈川県ボランティア活動推進基金審査会を開催する。
- 率直な意見交換を通じて公平な審査をする必要があり、神奈川県情報公開条例第25条第1項第1号に該当することから非公開とする。  
ただし、プレゼンテーション審査は公開とする。

### ■ 審議事項1 令和5年度ボランティア活動補助金事業（新規）の選考

（事務局から以下について説明）

- ボランティア活動補助金事業の応募状況（資料1）
- 来年度のボランティア活動補助金事業に係る予算（資料2）
- 審査委員と利害関係のある団体からの提案なし
- 事務局からプレゼン審査対象団体の申請概要及び幹事会での事前調査結果について報告（資料3、4）

（委員による審議）

- ボランティア活動補助金への申請事業に係るプレゼンテーション審査における確認事項等について検討した。

（プレゼンテーション審査の実施）

- ボランティア活動補助金の申請事業に対するプレゼンテーション審査を次のとおり行った。なお、傍聴は会場での参加とした。

---

【女性や性的マイノリティーの方などを対象として、路上生活者、ネットカフェ生活者、生活困窮者などで住まいを必要としている方へ「緊急一時・短期宿泊場所」を無償提供す

## る事業】

特定非営利活動法人さーくる横須賀（以下「さーくる横須賀」という。）によるプレゼンテーション実施。

### <質疑>

（朝倉委員）

申請書と本日のプレゼンテーション資料では、事業計画の規模が異なっている。基金 21 補助金への申請金額は変わっていないが、事業の総額が増えている。申請書を提出した後に変わった点は何か。

（さーくる横須賀）

申請書を提出した当初は、借りる物件を 3 万円程度で計画していたが、実際に物件を探してみると、なかった。不特定多数の方が使用する物件はないということが最近になって分かり、金額を上げる必要があったため、事業総額が増となった。

（朝倉委員）

男性のシェアハウス 1 について、年間予算を教えてほしい。

（さーくる横須賀）

築 80 年の家を光熱費込みで、18 万円と格安で借りている。

（朝倉委員）

今回、申請しているシェアハウス 2 について、個室 1 となっているが、受入れは、1 名ということか。

（さーくる横須賀）

そうである。

（朝倉委員）

1 室であると、支援は 1 名のみになってしまうが、そのことについてどのような考えを持っているか。

（さーくる横須賀）

当団体のスタッフが 8 名と説明したが、女性スタッフは、そのうちの 2 名である。

また、当団体のスタッフは、専従ではなく、ボランティアで、仕事の合間で活動をしている。そういったことも鑑みて、当団体が支援できる人数を 1 名とした。

（朝倉委員）

シェアハウス 1 は、2 室となっているが、スタッフの状況で 2 名としているのか。

(さーくる横須賀)

そうである。

(朝倉委員)

支援対象者がリスタートするまでの期間が1～4カ月と書いてあるが、実際の状況も同じであるのか。

(さーくる横須賀)

生活保護の場合、14日～30日程度で受けられ、1カ月である。ただ、働く場合は、給料は1カ月後もしくは2カ月後となってしまうので、2～3カ月働かないと初期費用が貯まらないため、4カ月ほど必要になっている。

年間7名という実績は、この周期では最大数である。

(朝倉委員)

順番待ちをしている方もいるのか。

(さーくる横須賀)

今のところ、順番待ちの方はいない。時期によっては集中することもありえる。

(朝倉委員)

場所を提供するだけの事業であると、補助金事業に不適合ではないかと議論になっているところだが、生活を再構築していく部分について詳しく教えてほしい。

(さーくる横須賀)

負債を抱えている方には、解決へのお手伝いや住居探しのお手伝い、仕事探しもハローワークを紹介するだけでなく、同行する等、マンツーマンで支援をしている。

今回、申請の女性・性的マイノリティーの方に対しても、同様に住居・仕事探し等のお手伝いに関わっていく。

(朝倉委員)

基本的には、ボランティアで活動されているとのことだが、週のどのくらいの時間をこの活動に使っているのか。

(さーくる横須賀)

私自身は、専任のボランティアで、自分の時間の半分はこの活動に使っている。私が基本的に動いて、仲間たちが昼や夜の見回りや支援対象者の引っ越しの手伝い等を一緒に行ってくれている。

また、土日や夜の時間帯にミーティングを実施し、支援の方法などを検討している。

(中島会長)

横須賀市との関係について伺いたい。市営住宅の空き家を無償で借りる、協働事業として取り組む等の計画が申請書には書かれているが、今後の見通しについて教えてほしい。

(さーくる横須賀)

横須賀市の生活支援の部署に、協働事業として家を提供してもらい、中の運営を当団体が担うという提案をしたところ、その内容では、住宅課に相談するようにと言われ、生活支援の部署には直接関わってもらえてない状況である。

(中島会長)

現在、提案をされているという状況か。見通しは不透明という理解でよいか。

(さーくる横須賀)

見通しが暗いので、先走って実施しないと支援が必要な方への対応ができないということで、この基金 21 補助金に応募した。また、横須賀市から、家賃も対象経費となるため、基金 21 補助金に応募したほうがよいと言われた。

(中島会長)

ボランティアの人が中心となって担い手になっているとのことだが、支援にかかわる経費が、申請書の予算には計上されていない。先ほど、支援対象者が入居した後の支援を勉強しながら取り組んでいるとのことだった。女性や性的マイノリティーの方が入居されても十分な支援ができると考えているか。

(さーくる横須賀)

そのための学習会を実施してきた。さらに、DVの方の受入れ予定はないが、DVを受けた方への支援という内容も学習会に取り入れて開催したいと思っている。

(中島会長)

組織的には、これから物件を確保し、人員を増やし、多くの方を受け入れていきたいという考えはあるのか。

(さーくる横須賀)

多くの方を受け入れられる力があるとは思っていない。それよりも、自分たちで別に収益事業を行い、収益事業の中から社会貢献ができればと思っている。

(中島会長)

このシェアハウスに来られる女性や性的マイノリティーの方たちは、どのようなルートやきっかけで貴団体に来るのか。

(さーくる横須賀)

来られる方は、当団体のチラシを見た方。横須賀市内に年 4 回広報誌を配布したり、ネ

ットカフェにチラシを貼っているの、そこからSOSがかかってくる。

**【学習障害やその周辺の子どもたちのための「デジタル副教材（漢字編）」の開発】**

特定非営利活動法人不登校・発達支援ネットワーク Seeds APP（以下「Seeds APP」という。）による プレゼンテーション実施。

<質疑>

（為崎委員）

初年度の資金の大半が、デジタル副教材の「象形文字」と「視聴覚法」のシステム開発費となっているが、その有効性がどのくらいあるのか知りたい。プレゼンテーションでも有効性のグラフも出されていたが、具体的にこのデジタル教材を投入した時に、県域の子どもたちにどれくらいの効果が期待できるのか。

（Seeds APP）

私たちの現場で学びづらさを感じている子どもを80名ほど抽出している。その子どもたちの支援の現場でデジタル副教材を開発をしながら試行し、課題を見つけ、有効性を高めていけることが当団体の強みだと考えている。

（為崎委員）

ネット等で調べると視覚法や聴覚法などが出てくるが、中々、これが一般に広まっていない理由はあるか。

（Seeds APP）

今までも視聴覚法について、研究者の方が書籍でも出していたが、本などの紙面で見えて覚えることは非常に労力があると思う。

ただ、デジタルであると音や色等を合わせて、他感覚を活用できるので、非常に有効になってくると考えている。

（為崎委員）

今回の申請は、本といった紙面ではなく、デジタルでやるということが新しさであり、肝になるということか。

（Seeds APP）

そうである。世の中にはまだ出回っていないと思う。

（為崎委員）

開発したデジタル副教材がどれだけ使われていくかが大切になると思う。プレゼンテーションの中で様々な方にとって有用とおっしゃっていたが、子ども達自身がネットを見て自分で使っていくというよりは、指導者や保護者が間に入って子どもに使わせるという形になるのか。

(Seeds APP)

子ども自身がネットでログインして遊びながら、音や動きで漢字を覚えていく方法、あるいは、指導者が活用するということもある。私たちは3つくらいのパターンがあると想定している。

(為崎委員)

本当に必要としている人たちに使ってもらわないと意味がないと思うが、必要としている人たちに使ってもらうために、デジタル副教材の認知を上げる、活用を促進するといったことをどのように行う予定か。

(Seeds APP)

まずは、様々なDM、親の会等で周知、SNSの活用、プレスリリースといったマスコミの力を使った広報を連携させながら普及してきたいと考えている。

(為崎委員)

SNSやプレスリリースであると、一般の方向けとなる。その中でどれだけ必要としている方々に情報が届くか難しい面もあると思う。親の会への周知との話があったが、当事者やその関係者とのネットワークが既にあると考えてよいか。

(Seeds APP)

6年間の活動の中で培ってきたネットワークがある。

この事業は、確かに、学習障がい、読書きが困難な子どもたちが学びやすいということを出しているが、実際にはそこに留まらず、全ての子どもたちにとって新たな面白さを感じる漢字学習という角度で、一般の方にも広まっていくとよいと考えている。

(為崎委員)

3年間の計画の中で、開発する文字数が、初年度に象形文字50字、視聴覚法の漢字50字となっている。デジタル副教材で開発する文字は、これで留めて、これを基盤に展開をしていくのか。3年間でどのように充実させていくのかを教えてほしい。

(Seeds APP)

まず、今回開発する視聴覚法の学び方が絶対によいものであると決めつけてはいけなと考えている。プレゼンテーションで提示した覚え方は、あくまでも一例である。子どもたちは、様々な学び方を自由に発想し、覚えていってよいと思う。それが本質だと思う。50文字というのは、覚えづらい漢字の覚え方の例を開発し、紹介する。さらに子どもたちが考えた別の方法等の実例も載せて広げていきたいと考えている。

子どもの中でも、一人で主体的にどんどん学習をしていくことが難しい子もいる。支援者の関わりがある、学習計画が提示されることによって学習ができる子どももいる。よって、3年目以降、個別最適化、その子どもに応じて学習量や目標、学び方ができるように

していくことが当団体の考え方である。

(為崎委員)

3年間で何文字くらいをカバーできる想定か。

(Seeds APP)

小学校の常用漢字 1,026 文字は、様々な事例が出てきてほしいと考えている。また、子どもだけでなく、大人からもアイデアを出してもらいたいと考えている。

(為崎委員)

3年間の計画で、2年目以降、システムの開発がなくなるにも関わらず、その他の経費が 200 万円と書かれている。何の経費にかかるのか。

また、補助金終了後、どのように事業を自立させていくのかを教えてほしい。

(Seeds APP)

システムを開発するにあたり、システム開発会社と打合せをしたところ、申請書に計上した 150 万円でもギリギリの金額であった。当初は、150 万円をオーバーした金額を提示されたが、変えられるところを変えて、金額を抑えた。

ただ、これが世の中に広まり、さらに学びたい子どもやオンラインを望む子どもを受入れ、有料という形で実施していきたいと考えている。あるいは、漢字の個別最適化については、有料のモデルとして継続させていきたい。

(為崎委員)

収入については、分かった。2、3年目の経費のうち、「その他経費」は、具体的に何を想定しているか。

(Seeds APP)

システム開発費で計上している。

(中島会長)

小学校で学習する漢字 1026 字を網羅するために、例えば、学びの広場で様々なアイデアを入れて使い方について工夫をされるとのことだったが、システム開発の方向性としては、量的な拡大なのか、使い方等、ソフト的なものなのか。

(Seeds APP)

両方だと考えている。1つは、世の中への啓発的な意味がある。学習は、書くだけではなく、多様性に応じた学び方がある。学習障がいという言葉があるが、現場で子どもたちを見ていると、その子の能力が低いわけではなく、学び方が、その子にとって障がいになっている。そういったことをこの教材を使って、啓発していきたいという意図がある。

(中島会長)

個別最適化やオンラインでの提供は有償化、という構想があるとのことだが、事業費全体としては、事業収入が計上されている。これは、フリースクールからの補填で対価収入ではないと理解しているが、これが対価収入に置き換わっていくのか。

(Seeds APP)

そうである。事業として実施できるようになった場合、継続していくために有償の部分が出てくると思う。

(中島会長)

プレゼンテーションの中でも成果・有効性という言葉が出てきたが、何をもってそれが有効であるのか。プレゼンテーションや申請書類等からは、子どもたちの自己効力感を高めるとされており、必ずしも漢字を学習するだけではないと感じとれた。そもそもこのツールの目指すところを教えてほしい。

(Seeds APP)

この事業を設立した当初は、高校の教員をしていた。その時に、「字を読めない・書けないから、私は馬鹿だ」と自身のことを言う生徒がいた。その生徒は、芸術の素晴らしい才能があったが、その生徒が、字を読めない・書けないだけで、全ての自信を無くしている状況があった。

不登校になる子どもの中にも、一定数そのような状況があるため、デジタル教材を開発が有効であるのならば、広げていきたいと考えている。

(中島会長)

漢字を学習したことではなく、書くことができる自分を有用であると認めるという解釈でよいか。

(Seeds APP)

そうである。

(中島会長)

ディスレクシアやディスグラフィアの方々が、無理して漢字を学ぶ必要がない場合もあると思うが、それも含めて効果を見据えていると解釈してよいか。

(Seeds APP)

そうである。漢字が書けなくでも生きていける。ただ、子どもが生活する中で、傷ついたり、自信を無くしてしまう時、このようなきっかけで変わっていけると思っている。

(中島会長)

貴団体としての事業収入があり、他にも様々な補助金がある中で基金 21 補助金に応募



した一番の理由を教えてください。

(Seeds APP)

公的なお金をいただきながら事業を実施したい。それは、教育委員会や学校等の教育関係者を含めて連携させていただきたいからである。

### 【木質バイオマスを活用した地域内エコシステム構築事業】

特定非営利活動法人 侘（以下「侘」という。）による プレゼンテーション実施。

<質疑>

(尹委員)

申請書では、構成員数が理事会員 13 名、一般会員 4 名とあるが、今、実働しているのはこの 17 名という理解でよいか。

(侘)

そのとおりである。

また、活動を気に入って様々な切り口でコミットしてくださり、遠方からも参加してくださる方々が潜在的な人数として 70~80 名いる。

(尹委員)

地元にお住まいの方や関心のある方等、貴団体としてはどのくらいの人数を掴めていて、どのくらいの関心度で関わってくれていると考えているか。

(侘)

この活動は、1 年過ぎたところである。当団体は、事あるごとに地域の住民の方と交流し、協働できるイベントの発案・運営をしている。また、地域の中でも大きくなりすぎた木を切ってほしいという要望に対応するサービスも行っているため、少しずつだが知ってもらっていている。

寄には、7つの自治会がある。自治会長レベルには、当団体の活動や住民にも少しずつ知られていっているという感触は持ってもらえている。

(尹委員)

地域住民の方が活動に参加しているという事例も生まれているか。

(侘)

そうである。登山道の整備、山の散歩に使える道を整備する等、一緒に汗を流して活動している。その中で認知も進んできているという感触がある。

(尹委員)

プレゼンテーションの中で、里山整備で住民の参加を増やしたいという話があったが、

現時点では、どのようなボリュームでそういった方が参加しているのか。

(仿)

主にイベントである。先日、当団体が実施したイベントでは、メンバー宅の横の法面が、土で流れやすかったが、石で作り直し、石垣を作っていく、かつての結のような共同作業を行った。このようなイベントは珍しいようで、多くの方が興味を持って参加してくれた。

(尹委員)

地域の方や住民で継続的にこの活動に関わってくれそうな方はどれくらいいると感触を得ているか。

(仿)

緑のインフラを守っていく活動をそのまま訴えても響く方は少ないと思うが、例えば、週に1回、朝から近隣の山を歩く山歩会等を催すなど、少しハードル低くしながら、参加できる入口を作っている。

(尹委員)

切り出した木を健康福祉センターで使ってもらう形で計画をされているが、実際にもっと需要の開拓が必要ではないかと思う。その点の考えを教えてほしい。

(仿)

そのとおりである。この事業を始める前から広葉樹が針葉樹よりも火災持ちがよく、品質が優れるというニーズに向かって販売先を開拓している。実際、都内の高級なパン屋の窯で使ってもらっている。他にも南足柄市の使われなくなった学校跡地を利用したキャンプ場に置いてもらっている。今後は、ピザ屋やレストラン等への開拓も視野に入れ、夢を描きながら活動を続けている。

(尹委員)

主に小さな商いを対象に考えているということか。

(仿)

まずは、そういったところを1つずつ、フェイストゥーフェイスのお付き合いを始め、長続きする形につながっていくのではないかと考えている。大きな商いよりは小さく深い商いに重点を置いている。

(尹委員)

作業場所に地元の工場跡地を借りているとのことだが、賃借料は発生しているのか。また、年限としていつまで借りることができる等、明文化しているのか。

(仿)

今、木を置かせてもらっている場所は、共有地であり、松田町の計らいによって無償で借用させてもらっている。それに付随して、規模の大きな総合跡地(地元企業の遊休施設)を無償で借用している。これは、その会長の地元で、志ある活動に対してはできるだけ寄与したいという計らいである。ただ、会長から間に松田町に入ってもらいたいという要望があったため、会社と町で契約、町と当団体で契約という2重の契約を結んでいる。

(尹委員)

年限は定まっているか。

(仿)

年限は、1年単位で更新していくことになっている。

(朝倉委員)

松田町との関係性について伺う。初期投資の部分の助成金、町営敷地の借用、公営浴場での燃料の購入の3点が基本的な松田町からの支援ということか。

(仿)

現状においてはこの3点に留まるのだが、現在進行形のもので、定住・少子化対策室とのジョイントで関係人口創出するための薪割や、炭焼きをする森や木のイベントを委託事業として実施しているものがある。

(朝倉委員)

松田町からは、それ以上の協力はありそうか。

(仿)

町とは非常によい関係を築けている。松田町からは、初期投資の資金的援助をいただき、その後も持続させていくためにどうしたらよいかを、関係部署と年に1~2回、打合せをしている。例えば、コロナ禍で公営浴場の営業時間が短くなったが、それを延ばすことはできないか。夜間にも営業ができないか等、改善策を一緒に考えながらやっている。

(朝倉委員)

エコシステムの地域内というのは、松田町のみか。それとも松田町より広いイメージか。

(仿)

目標は、地域の魅力を発信し、関係人口を増加させ、移住してもらい、ここを核に足柄地域全域、酒匂川流域圏に広がるようにしたい。木が多く生えているにも関わらず、林業に力が入っていない。今までの林業とは違った方向性のブレイクスルーとして、木質バイオマスを使った熱利用のエコシステムに大きなチャンスと可能性があると考えている。

(朝倉委員)

貴団体が今、課題として考えているのは、需要と供給どちらか。

(仿)

どちらもある。今、一番潤沢に持っているのは、広葉樹の原木である。これは、構成メンバーの多くが伐採に優れており、自ら地域の悩み相談で大木を切りに行き、切った木をもらってきたり、有償譲渡をすることで手元に確保できているからである。

(朝倉委員)

三保ダムが近く、そこから流木が出ていると思うが、流木は使えるのか。

(仿)

薪にする目的で考えると、可能ではあると思うが、今は、そこのコネクションは持っていないため、現実的には難しいと思う。

**【電話／オンライン／対面による心身の健康に関する個別相談支援・心理セミナー事業】**  
特定非営利活動法人 ABC ジャパン（以下「ABC ジャパン」という。）による プレゼンテーション実施。

<質疑>

(水澤委員)

現在、相談事業を有償で実施されている。今回、心理サポート事業を申請されているが、この事業の課題を教えてください。

(ABC ジャパン)

まず、当団体では2年前から心理に関する活動として始めたものである。それを通じて、外国人住民や外国につながる子どもと保護者の方々の心理に関わるサポートの場が非常に少ないことが課題である。その支援として、今回、申請した。

(水澤委員)

場が少ないことに対し、この事業をどのように進めていこうと考えているのか。

(ABC ジャパン)

まず、当団体の SNS だけでなく、学校や教育委員会、自治体、地域の窓口はこの事業の広報の依頼をする。

また、子どもたちに直接伝えるために学校の先生たちに知ってもらうことで子どもたちつながるように進めていきたいと考えている。

(水澤委員)

地域や学校との連携を広報の手段として考えているとのことか。

(ABC ジャパン)

そうである。

(水澤委員)

心理セミナー事業について、内容としては、専門家を講師として市民が抱える課題を問題提起して意見交換を行うとのこと。対象は外国人の支援者・市民となっているが、この対象に地域性等はあるか。

(ABC ジャパン)

対象は、広くと、考えているが、この事業は1年に1度と計画している。実際に来ていいる心理の相談内容を見てより必要であろうことをピックアップして実施したいと考えている。

(水澤委員)

外国人の方々へ広報を行い、地域問わず、参加者を募るという方法になるのか。

(ABC ジャパン)

セミナーは、オンラインで実施する予定であるので、地域は限定せずに様々な方が参加できる状況を作ろうと考えている。

(水澤委員)

心理セミナーは、事業1のつながりの中で、オンラインにより、つながると考えてよいか。

(ABC ジャパン)

オンラインと相談である。事業1の相談で来た外国につながる子どもたちや保護者の方々が抱える課題を、広く市民の方や支援者の方たちに分かってもらうことで、外国につながる子どもたちを身の回りで支えられると考えている。

(水澤委員)

心理セミナー事業では、様々な医療機関や心理士の方々と連携を深めていきたいということだが、このつなぎ先の目途はあるのか。

(ABC ジャパン)

外国語で心理相談事業を行っているクリニックがある。また、県内で教育相談などの窓口を設けている団体もある。さらには、自治体や教育委員会を考えている。

(水澤委員)

教育相談を実施している団体を具体的に教えてもらえるか。

(ABC ジャパン)

藤沢にある、MINTOMO 交流会、地球市民友の会という団体や、愛川町にある日系ブラジル人の方で、教育に関する活動をされている方がいる。横浜市では、かながわ外国人すまいるサポートセンターやあーすプラザ、ME-net 等を考えている。

(山岡委員)

相談事業を2年前から実施されている中で、あえて基金 21 補助金に申請された理由、目的、補助金を使ってどのように変えていきたいと考えているか教えてほしい。

(ABC ジャパン)

この事業は、他の助成を受けて始めたが、これが終了する。団体の資金だけでこの事業を実施すると考えた時に非常に規模が小さくなってしまうという状況があり、今回、申請をした。基金 21 補助金で広く必要な方たちに情報提供をしていくとともに、団体の基盤も安定させたいということである。

(山岡委員)

事業1と2のつながりで相談の内容をより広く伝えていくという話があった。事業1が事業2につながるというのは分かったが、事業2が事業1につながるということはないのか。

(ABC ジャパン)

セミナーに支援者の方々も参加することを想定しているので、セミナーを受けた内容を実際の対応する中でつなげることも考えている。

(山岡委員)

事業2について、申請書に、互いに補いあえる、学びあえる環境づくりに貢献すると、大きなゴールが書かれている。オンラインで実施するというので、エリアも広く、年に1度の開催であるため、どのように目標とする状況になるのかイメージができない。具体的にどのような状況を想定しているのかを教えてほしい。

(ABC ジャパン)

相談者や支援者の方々が、それぞれの地域や家庭、職場等の居場所の中で、発揮することで地域全体が安定し、一人ひとりが活躍できる。受益者だけではない。その方たちも支える側にもなるということである。

(山岡委員)

貴団体は、現在、基金 21 協働事業負担金を実施しており、その前にも補助金事業を実施してきた。その中で自立的に運営することも期待しているのだが、今回の事業を補助金に頼らず自立的に広げていく可能性はなかったのか、難しかったのか、考えを教えてほしい。

(ABC ジャパン)

現在、行っている協働事業負担金で実施している事業については、来年度以降は団体の収益から実施していく予定である。今回、申請した事業については、まだ基盤に不安定さがある。

WEBでのオンライン教材やいくつか新しくできあがったものがあり、企業のプロボノの方たちとどのように収益化できるかと進めてきたので、そのアドバイスをもとに、補助金3年の間に準備し、収益を増やしていきたいと考えている。

(朝倉委員)

定款を拝見すると、5条に事業目的がある。この定款の事業目的と今回の申請の内容の関係性について考えを教えてください。

(ABC ジャパン)

外国人市民と一般市民の方、一人一人が社会の中で力を発揮できるようにと20年近く活動してきた。近年、コロナもあり、心理的なサポートを必要とする声が団体に届いてきた。こういう課題に取り組むことで当団体の目的にもあたると思い、行っている。

(朝倉委員)

定款5条に事業の種類があるが、今回の申請の内容は、この中のどこに該当すると考えているか。

(ABC ジャパン)

教育に入ると考えている。

---

(委員による審議)

○ ボランティア活動補助金事業(新規)の提案事業に係る公開プレゼンテーション審査の結果を踏まえて審議を行い、事業を選考した。

※ 選考結果は後日団体に通知。

---

## ■ 審議事項2 令和5年度協働事業負担金の対象事業選考

(事務局から令和5年度協働事業負担金協議結果について説明(資料5))

○ 県協働部署との協議結果を受け、来年度実施する事業を選考した。

## ■ 閉会

(審査会長より閉会の宣言)

○ 令和4年度第6回神奈川県ボランティア活動推進基金審査会を閉会する。

(以上)